



日本気象学会
東北支部だより

第79号
2014年8月

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪一丁目3番15号
仙台第3合同庁舎 仙台管区気象台内
(公社) 日本気象学会東北支部

<http://tohoku.metsoc.or.jp/>



支部長就任あいさつ

日本気象学会東北支部長 **高瀬 邦夫**

2014(平成26)年6月13日に開催された日本気象学会東北支部理事会において、支部長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願いたします。

気象学・大気科学の発展は、遠近を問わず将来の気象状態が知りたいという知的欲求と、その解明による社会貢献との両輪が、原動力だと考えています。そして、気象学会には、そのエネルギーを有した、研究機関の方、教育関係の方、気象業務に従事する方、解説・普及に従事する方、気象に興味を持たれている方、および防災などを担当する行政機関の方など、様々な分野の方々が会員となっております。このような幅広い会員構成は気象学会の大きな特徴ではないかと思えます。

研究課題の高度化に伴い、研究分野は細分化されて、相互の研究内容の理解は、容易でなくなってきました。また、社会からも理解されにくくなっています。しかし、会員が幅広い分野にまたがっていること、そして、気象学の社会貢献というもう一つの切り口によって、研究が開かれたもの、理解されやすいものにできると思えます。

社会貢献の筆頭は、気象予測・解析を通じたの災害防止・軽減です。昨年8月の東北地方北部の集中豪雨は、残念ながら事前の雨量予報は十分とは言い難いものでしたし、今年2月の関東・東北地方太平洋側の記録的な大雪についても降雪量予測は難しいものでした。研究を進めて予測につなげなければなりません。また、災害防止・軽減に関しては、気象災害に備えるための普及啓

発、学校教育についても気象学会支部として貢献できる分野です。

冷害をもたらす低温の季節

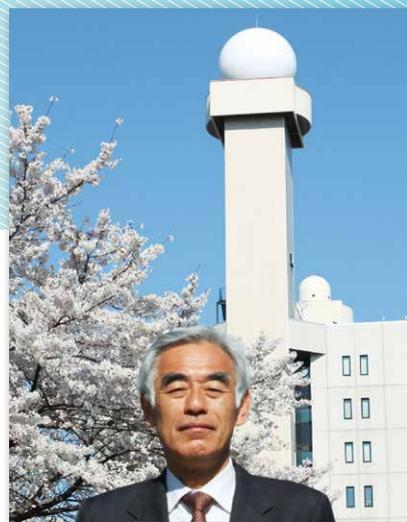
予報、ヤマセの実態解明は、東北地方での研究が先進的であり、地域への貢献が大きいものです。

地球温暖化、地球規模の大気汚染は、タイムスケールの長いグローバルな課題であるものの、最終的には個々の地域のローカルな現象となって現れます。したがって、研究の多くは、地域との関わりを持っていますし、地域との関わりを通じた社会への貢献があると思えます。

このように考えますと、東北支部会員の皆様方の活動は、研究、社会貢献の両面で日本気象学会を盛り立て、ひいては、公益社団法人としての役割を果たせることにつながるのではないのでしょうか。

今後とも、東北支部を、地域の特徴を生かした研究はもとより、幅広い分野の研究における会員相互の連携、普及啓発・教育活動の推進に役立つ存在として維持・発展させて参りたいと考えます。

会員の皆様におかれましても、それぞれの分野でご活躍されますとともに、気象学会東北支部の活動へのご協力を賜りますようお願いいたします。



気象学と大学・社会

東北大学 大学院理学研究科長・理学部長 早坂 忠裕

近頃、大学の理学分野における大学院博士課程進学者の数が伸び悩み、将来の研究者育成や我が国の研究水準の維持に影響するのではないかと懸念されている。これは、一般には博士の学位取得後の就職が不安定であることが主な要因と考えられているが、研究分野によって事情が異なるので、気象学あるいは地球物理学に限って本稿で少し考察してみることにする。なお、ここで用いる「気象学」とは、気候変動科学、大気科学、大気環境学など関連する分野を広く含むものとする。

1990年代の大学院重点化に伴い、大学院の学生数は増加した。一方で、博士課程に進学する学生は定員が増加したにもかかわらず、それほど増えていない。ちなみに東北大学大学院理学研究科においては、修士課程は定員を充たしているが博士課程定員充足率は秋入学の留学生も含め、毎年7割程度である。理学研究科の中の地球物理学専攻も例外ではなく、年によっては入学者が定員の5割以下という場合もある。特に気象学の分野で博士課程に進学する人は少ない。修士課程は、人気が高いというほどではないが一応定員は充たしているので、多くの学生が修士を修了しても博士課程に進学しないということになる。

この傾向は本学に限ったことではなく、他の大学でも同様である。その理由の一つとしては、大学院入試の面接や普段の学生との会話から感じることであるが、気象学を目指す学生の多くはその専門分野を活かして社会に貢献したいという気持ちが強いことがあげられる。学部では講義を聞いて試験を受け、あるいはレポートを提出して卒業し、卒業研究のようなものは行なうものの学会で発表するような研究はほとんど無い。したがって、大学院に進学して研究をしてみたいと思うのも当然なことである。また、社会の風潮や同級生の動向に同調するというのもその一因であろう。その一方で、気象学の分野は、社会における受け皿も比較的多い。実際、修士課程を修了して気象庁や気象関係の会社に就職する者は少なくない。博士課程に進学して就職に困るよりも修士課程を経て自分がやりたいと思うことがある程度できるところに就職する方が良いと若い人が考えるのも、ある意

味、理解できる。

ところで、同じ理学分野でも天文学専攻は以前と同様、最近でも人気がある。学部、大学院の学生定員が少ないことや全国の大学で天文学を研究できる大学に限られていることも一因ではあるが、博士課程も概ね定員を充たし、修士課程の入試の倍率も例年2倍あるいはそれ以上という状況である。地球物理学専攻の中でも超高層大気や惑星大気、太陽系空間などを対象とする研究分野は博士課程進学率が比較的高い。これらの分野では社会に貢献するというよりも学問そのものに興味を持ち、研究をしたいと考えている学生が多いのではないだろうか。したがって、大学院に進学する動機が気象学を目指す学生とは異なるものと思われる。

では、大学院ではなく学部の状況はどうか。東北大学理学部は入学時に数学系、物理系、化学系、生物系、地学系に分かれて入学する。気象学も含め、地球物理学コースに進学するのは物理系の学生である。実は、昔に比べると物理系の学生の中で地球物理学コースを希望する学生が減少している。筆者が学生のころは、地球物理学コースを希望する学生の数は定員の2倍程度であったという話を聞いたことがあるが、現在は、ほぼ全員が希望どおりに進学できる。

これらのことは何を意味するのだろうか。もともと理学部物理系に入学してくる学生は学問としての物理学の面白さを学びたいと思っている者が少なくないように思われる。一方で、地球物理学は気象学のみならず地震学など、社会と密接に関係している分野が多い。気象学の分野で言えば、地球温暖化問題や大気汚染問題、地球環境問題も研究対象となっている。自戒の念をこめて言えば、学生たちに向かって研究室の紹介をするときに、社会が重要だと言っている、あるいはIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が重要だと言っているというようなことを知らず知らずのうちに強調していないだろうか。もちろん、教員の大部分は、社会的ニーズに則した研究テーマでも研究そのものが面白いと思って研究をしていると思われるが、社会全般の風潮もあり、このことを強く自覚しないと、気象学が学問として本当に面白い

と言うことが学生に伝わらないのではないかと思います。また、成果主義が叫ばれる現在では、短期間で社会に理解されやすい成果が得られる研究テーマを選ぶ傾向もある。さらに、各種調査から、国立大学の法人化後は、評価に対する対応や運営費交付金の減少に伴う競争的研究資金の獲得のため、教員は忙しい毎日を送ることになり、研究に使う時間が減少していることが明らかになっている。若い学生から見れば、研究の学問的意義などは

分からなくとも、教員や先輩の大学院生が、毎日、嬉々として寝る間も惜しんで研究をしているということが魅力的に映るのではないだろうか。

以上、大学で気象学を学ぶ学生をとりまく状況に関する私見を述べたが、科学に対する社会的ニーズが高まる今日、大学に奉職する者は、気象学の研究を通じて社会に貢献するとともに、気象学の学問としての面白さを若い世代に伝える必要があると考える。

第4回

気象サイエンスカフェ東北

去る2014年3月9日(日)、第4回気象サイエンスカフェ東北が開催されました。サイエンスカフェは、飲食店のカフェのような気軽な雰囲気の中で科学を語り合う場をつくらうというもので、科学の専門家だけではなく、科学に興味を持っているが専門家では無い一般の方々も参加して話を交え、科学に対する興味を高め理解を深めてもらいたいという会です。気象サイエンスカフェは、その話題を気象に関係するテーマに絞った催しです。今回も昨年度と同様、日本気象学会東北支部と日本気象予報士会が主催、日本気象協会東北支局、仙台管区気象台共催の形で開催されました。会場は仙台市営地下鉄旭が丘駅に隣接する日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)です。当日の参加者は、一般参加者13名、予報士会東北支部会員8名、気象台、気象学会、東北大学等15名、計36名でした。今回は「竜巻から身をまもる」をテーマとし、はじめに「竜巻などの激しい突風からどのようにして身を守るかを考えよう」と題して、仙台管区気象台白川榮一予報課長が話題提供を行いました。引きつづき4つのテーブルに分かれてテーブルディスカッションになりました。テーブルには飲み物やお菓子が準備され、それらをいただきながら気象の専門家と気象に興味を持つ一般の方が、普段考えていること

など、堅苦しくなくリラックスして意見を出し合いました。各テーブルでは東北大学の大学院生がファシリテータを務め討論をリードしました。気象予報士会の気象予報士も各テーブルにわかれサブファシリテータとして議論を盛り上げました。ファシリテータ、サブファシリテータにはあらかじめ話題提供の資料が配られていて、予習の手助けになりました。最後にファシリテータがそれぞれのテーブルの討論をまとめ発表し、白川予報課長と質疑応答になりました。司会進行は日本気象協会東北支局所属気象予報士の鈴木智恵さんが担当しました。近年発生頻度が増している竜巻などの顕著な気象現象には一般の方も関心があるようで、熱心に議論が交わされました。特に、予測が難しい竜巻において、竜巻注意情報などの予想の情報をどのように理解し活用したら良いか、実際に竜巻注意情報が発令されたらどのように対応したら良いか、など具体的な意見交換が行われました。開会並びに閉会に際しては、私が気象学会東北支部気象サイエンスカフェ担当理事として挨拶をいたしました。

反省点としては、昨年同様、一般の参加者が10名と少なめで主催者サイドの参加者の方が多いと言う状況は変わらず、事前の宣伝など今後の課題が示されました。また会場も、仙台市中心部や、またオープンスペースな

など、検討の余地が示されました。今回の反省点を踏まえて、来年度はさらに充実した気象サイエンスカフェを準備していきたいと思いました。

東北支部常任理事
杉山公利



2013年度 日本気象学会東北支部第2回理事会 議事録

日時：2014年3月14日(金) 16時00分～17時45分

場所：仙台管区気象台第3会議室

出席：牧原、青木、岩崎、境田、児玉、葦澤、白川、高橋（以上理事）、小室（会計監査）、山崎、金濱、折笠（以上幹事）

欠席：杉山、丹治、肆矢

司会：金濱

議題1. 支部長挨拶

議題2. 役員の交代

- ・議案参照
- ・支部長退職に伴い支部長代理を互選。後任支部長選出までの間、境田理事を支部長代理とする。

議題3. 2013年度事業報告

- ・議案参照
- ・秋季大会について、次回開催担当となる九州支部への申し送り資料は、3/3に送付済み。
- ・気象サイエンスカフェについて：
 - ・一般参加者13名は、予報士会・気象台・協会の関係者分を除いた数。
 - ・来年度は、会場確保を充分前もって行った方がよい。
 - ・報道対応は今年度無かった。気象台より報道機関との勉強会にて宣伝したが、来年度は別の機会（投げ込み等）を捉えて宣伝してもよいかも。
 - ・固定客のためにリストアップを行って毎年案内を出している。これが一般の方々の人出を増やす効果策の一つと思われる。
 - ・これからも学会と予報士会とのパイプをより太くするため、継続的に取り組んだ方がよい。

議題4. 2013年度会計報告

[支部一般会計]

- ・支部気象講演会での主な費目は、講師・理事の旅費、ポスター・チラシの印刷費・郵送費。
- ・支部だよりの郵送費は、1号あたり約1.5万円。
- ・支部として備品は現在保持していないが、今後対応を検討した方がよいと考えられる。

[支部強化基金による活動会計]

- ・平成24年度と同様、予報士会からの分担金1万円を受け取れる予算を組んだが、今年度は結果的に分担金無しで決算する（予報士会からは事前に了解を得ている）。

議題5. 2013年度会計監査報告

議案を承認した。

議題6. 2014年度事業計画案

- ・2014年度支部気象講演会について、二人の講演者のうち福島大学の渡邊明先生に打診したが、もう一人は未定。場所も早めに検討して決める。
- ・第79号支部だよりの掲載内容として、気象サイエンスカフェの報告、第2回支部理事会の議事録、次期支部役員の選挙結果報告、新支部長あいさつを予定。
- ・支部長会議での検討依頼事項に対応して議論すること

を目的に、新年度第2回支部理事会を3月から1月頃に繰り上げることを検討中。会計報告や監査は3月にメールでの報告にて対応することは可能。異動に関する情報もメール等で共有できる。具体的な時期は、新支部長と相談した上で新年度第1回支部理事会で決めることにする。

- ・気象サイエンスカフェ関連では、予報士会からの分担金1万を受け取れるように本部への交付申請を別紙のとおり概算として計画中。会場を早めに押えるようにし、会場費も含め再検討する。

議題7. 2014年度予算案

- ・今回の理事会費用及び次期支部役員選挙費用で、次期繰越金は約15万になる見込み。
- ・繰越金が目立って増えていくのは公益法人としても問題となるため、各事業活動での事業費や機材の充実等で対応を検討していくことにする。
- ・本部からの交付金として、支部活動強化基金はほぼ申請どおり出るが、一般会計の増額申請は困難と本部事務局から聞いている。仮に不足が生じた場合は、理事会に諮られ承認を受ける必要がある。

議題8. その他

(1) 第2回支部長会議報告

- ・秋季大会について、講演発表時間が短い、仙台の会場は一箇所でも便利だった、という感想が多かった。
- ・第1回支部長会議の課題について議論を行った。
- ・九州支部が2010年度から行っている「こども気象学会」の取り組みについて紹介があった。進め方に関するノウハウなど、別紙2資料として会議後に共有された。
- ・まずは本部が、全国の高校生を対象にしたジュニアセッションを平成26年度に試験的に行う予定。その結果をきっかけにして、各地方にも検討をお願いすることになった。
- ・気象予報士会との連携として、気象予報士CPD制度の導入に向け、最新の知識の習得や還元などの活動のために気象学会や気象台は今後も協力していくことが話し合われた。

(2) 事務局からの報告

- ・物故者の確認方法について質問があった。会費未納が1年間継続した場合を学会員リストから自動で外しているだけ。
- ・この1年で学会員は5名減。会員数の減少対策として、予報士会員を増やす努力をしてはどうか。積極的に勉強したいと思っている声を聞くことが度々ある。

その他（事務局から）

- ・東北支部細則の第1項において、地方理事3名とある。2015年度気象講演会が宮城県開催予定であり、2014年度の地方理事は2名となる予定。これを受け、この箇所の標記を「原則3名」とするなど、一部改正を次回支部理事会で検討する。

2014年度 日本気象学会東北支部第1回理事会 議事録

日時：2014年6月13日(金) 15時30分～17時10分
場所：仙台管区气象台第3会議室(3階)
出席：高瀬、青木、岩崎、佐伯、境田、葦澤、渡辺、児玉、高橋、和田(代理出席)(以上理事)、小室(会計監査)、山崎、折笠、金濱(以上幹事)
欠席：杉山理事
司会：渡辺理事

出席者紹介：各人から自己紹介
支部長挨拶：境田支部長代理から理事会開催の挨拶

議題1. 東北支部第29期役員選挙の結果

- ・議案のとおり役員が決定した(任期は2015年度まで)。

議題2. 新支部長及び新常任理事の互選

- ・事務局(案)のとおり推薦選任した。
支部長 高瀬 邦夫氏 仙台管区气象台長
常任理事
青木 周司氏 東北大学大学院理学研究科教授
岩崎 俊樹氏 東北大学大学院理学研究科教授
佐伯 芳氏 日本気象協会東北支局長
境田 清隆氏 東北大学大学院環境科学研究科教授
杉山 公利氏 日本気象予報士会東北支部長
葦澤 浩氏 仙台管区气象台気象防災部長
渡辺 真二氏 仙台管区气象台気象防災部予報課長
- ・新支部長からの挨拶(次号の支部だよりで掲載予定)

議題3. 事業等の担当理事の選任

- ・事務局(案)のとおり承認した。
①支部気象講演会 境田常任理事
(2014年度福島開催) 高橋地方理事
(2015年度宮城開催) 在仙理事
②支部気象研究会 渡辺常任理事
③東北支部だより 児玉地方理事
④支部独自活動 杉山常任理事
⑤支部事務局 渡辺常任理事
⑥会計監査 小室会計監査
- ・2015年度宮城の支部気象講演会について、前回(2009年度大崎市)は境田理事と仙台管区气象台事務局が中心となって実施した。

議題4. 2013年度事業報告及び会計報告

- ・2014年度奨励賞への応募について、葦澤理事より補足あり。
- ・前回の支部理事会(2013年3月13日)以降、2013年3月31日分までの会計報告。議案を承認した。

議題5. 2013年度会計監査報告

- ・議案を承認した。

議題6. 2014年度事業計画及び予算

- (1) 事業計画
1) 東北支部気象講演会
2014年度支部気象講演会について、開催担当で

ある福島地方气象台の高橋理事より説明。概要は次のとおり。

日時：平成26年11月23日(日) 14時00分～16時30分
(開場13時30分)

会場：コラッセふくしま 多目的ホール
(スクール形式288名)

テーマ：「東日本大震災以後の福島の空
—豪雨、大雪、大気中放射性物質—」

講演者：渡邊 明氏
(福島大学 共生システム理工学類 特任教授)
小畑 英樹氏
(福島地方气象台 観測予報管理官)

その他次のような意見等が出された。

- ・气象台の講演内容を早めに渡邊先生へ伝えてはどうか。講演内容で関連付けた話ができるかもしれない。
- ・放射性物質に係る問題については、気象学会としてレポートを取りまとめ中であり、この成果を講演会で紹介してもらえるように準備したい。(岩崎理事)
- ・定員が200名以上であり、人集めなどの努力が必要か。→駅前の便利な場所であり、関心が大きいテーマでもあることから、出来る限り宣伝したい。(高橋理事)
- ・会場費の請求書宛先が气象台だと割引対象になるため、そのように進めて問題ないか。→(共催として气象台が入り、)実施要領等と整合性をとればよいと思う。

2) 支部気象研究会

- ・今年度も仙台管区气象台の調査研究会の2日目午後に開催予定。
- ・研究を本務としていない方、学生には学会員に限定して、旅費の補助を出してはどうか。→総額の上限を決めて、可能な範囲で補助する方向で進める方向で承認。既に実績のある支部の場合を参考に、当研究会の告示段階で案内を出したい。

3) 支部だより

- ・第1回は7月発行予定。新支部長挨拶を掲載する。
- ・各地方で記事投稿のご協力をお願いしたい。

4) 支部理事会

- ・議案のとおり。

5) 支部強化基金による活動

- ・気象サイエンスカフェを11月頃の週末に仙台市で開催する予定。テーマ・日時・会場は予報士会やワーキンググループが中心となり詰めていき、準備を進める。
- ・昨年度は会場をおさえるのに問題があった。開催の半年前から動かないといけませんが、予報士会が中心となって動いてもらえるように働きかける。
- ・気象協会は、公益性がある開催内容であれば協力しやすい。(佐伯理事)
- ・ネタとして、気象衛星や冷夏などが考えられるか。

- ・開催1ヶ月前に周知するとして、テーマは開催3ヶ月前には決める必要がある。

6) 日本気象学会奨励賞などへの応募

- ・奨励賞候補者推薦委員会に予報士会の理事が新たに加わり、団体グループも選定対象に入ることを明記するように規定が変更される。(葦澤理事)

(2) 2014年度予算案

支部一般会計について、昨年度と大きく異なる事項を補足説明し、主な意見等は次のとおり。

(〔支部一般会計〕の表訂正：I 収入の部、事業活動収入計、2014年度予算額 [誤]735,837円→[正]735,887円、増減 [誤]60,641円→[正]60,691円)

- ・支部だよりの内訳として、1回あたり印刷代が約6万円、郵送料が約1.5万円。
→事務局の労力を省くため、郵送込みの発注も検討し見積りを取ることにする。
- ・全会員への支部だよりの郵送の是非について議論。
→ 全会員のメールアドレスが無い点などから、従来の方とす。
- ・支部気象講演会は、昨年度と比べ今年度の交通費は減るのでは。
→ その分を減らして他の項目に充てたい。
- ・支部気象研究会の予算案は印刷代が主であるが、旅費補助の追加金を予備費等から捻出して再提案したい。
気象サイエンスカフェ予算について補足説明し、主な意見等は次のとおり。
- ・各自の手元にプレゼン資料を配布した方がよいという反省があったことから、資料等の印刷代をもう少し増額してもよいのでは。
- ・会場費も柔軟に考えて、相応しい会場が利用できるのであれば経費の分だけ計上してもよいのでは。多少予算が超過しても、本部に相談すれば補填してくれると思う。
- ・予報士会分担金については特に問題なし。
- ・昨年度気象学会が公益社団法人に移行したあと、公益性のある広報・普及啓発活動を積極的に進めていくことが求められている。例えば、7月20日仙台で開催予定のサイエンスデイを学会として支援して取り組んでもよいのでは。
→支部として既存のイベントを協賛・補助して活動をアピールするのも効果的。
- ・支部気象講演会は各県持ち回りで6年に1

回行っているが、数年のブランクがあると一から準備し直しということもあり、隔年程度で開くのはどうか。

→まず予算の問題なのか労力の問題なのか分析し、検討する必要がある。

- ・次年度のサイエンスカフェ、講演会など支部独自活動の方向性を事務局でまず探り、次回理事会(1月予定)で検討することとする。労力や予算を精査して、無理のない取り組みができるようにする。

議題7. その他

議案のとおり。

- ・今春の支部会員数の減少は、学生の大学卒業に伴うものが主。
- ・気象講演会等の案内お知らせを送るため、事務局より福島県内の会員情報を後で教えてほしい。(高橋理事) 以上

2014年5月28日

日本気象学会東北支部会員 各位

日本気象学会東北支部第29期役員選挙結果について
(投票結果の公示)

日本気象学会東北支部
選挙管理人 山崎 剛

このことについて、2014年5月21日に投票を締め切り5月28日に開票した結果、下記の通り当選者が決まりましたのでお知らせします。

記

1. 役員数

在仙理事	8名	地方理事	2名
会計監査	1名		

2. 投票状況

有権者数	182
投票者数	126
投票率	69%

3. 得票数(五十音順)

在仙理事

青木 周司	125票	岩崎 俊樹	126票
佐伯 芳	124票	境田 清隆	126票
杉山 公利	121票	高瀬 邦夫	124票
葦澤 浩	125票	渡辺 真二	124票

地方理事

児玉 安正	126票	高橋 清利	125票
-------	------	-------	------

会計監査

小室 肇	125票
------	------

4. 投票結果

日本気象学会東北支部細則第7項により、すべての候補者が有権者の10分の1以上の得票を得て当選されました。

編集後記

第29期も支部だよりを担当させて頂くことになりました。仙台市から遠く、気象学会の行事に参加する機会が少ない会員にとっては、機関誌「天気」とならび「東北支部だよりの」も学会の貴重な情報源かと思えます。今後も「天気」には載らない東北地方の情報をお伝えしていければと思います。みなさまの原稿をお待ちしております。

児玉安正 (e-mail : kodama@cc.hirosaki-u.ac.jp)